

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的な理念に基づいて介護している。	・Gホーム北大手の「運営理念」を作成しており、掲示している。職員の面接では理念を自然に言えるなど理解している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事(ふれあい広場、どんど焼き)に参加したり、近隣に散歩出掛けたりしている。清明小学校と交流(運動会、音楽会、交流会)している。	・北大手自治会ふれあい広場での歌謡ショー、どんど焼きへの参加や清明小学校の4年生から6年生との交流により地域とのつきあいを大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成のためボランティア、実習生を受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者より意見いただき、情報の公表や自己、外部評価についても情報提供している。	・2カ月に1度運営推進会議を開催している。日常業務の問題課題点やインフルエンザ対策について意見交換している。市、地域住民、行政、家族会代表が参加している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で意見交換したり、市へ相談、問い合わせ等必要に応じて行っている。	・市高齢者介護課の担当者には、利用者のニーズや暮らしぶりを会議の折伝え、連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、身体拘束をしない工夫等職員間で話し合っている。玄関開出の際ロック式になっているが、外へ出た際は一緒に出られるようにしている。	・身体拘束に関するマニュアルに従いケアを実施している。出ていく気配を見逃さないよう見守りや連携プレーにより対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について、文献、研修で学び理解を深め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、制度の説明が必要な方には情報提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い、理解を得ている。重度化した場合における対応について説明したり、介護報酬の改定があった場合等、口頭や文書で説明している。入居後に支払等の相談も受けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口について掲示している。家族には面会時、遠方の家族には電話で、入居者には日常生活の中で話を聞いている。法人の運営会議で改善を検討する体制がある。	・相談には職員が対応している。内容は相談対応シートに記録し、職員会議で検討し反映している。家族から意見や要望が言いやすい雰囲気作りに配慮している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や、日々の申送りの中で意見要望を聞き反映させている。	・毎月職員会議を開催し、要望や意見を聞くようにしている。法人全体会議で施設長が参加し職員の意見や要望を反映させる仕組みになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断は年2回実施。就業規則があり掲示しています。小スペースであるが休憩スペースを確保している。資格の取得や研修等について支援がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加をすすめ、研修の報告は月1回の会議でしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上小圏域のグループホームフレンド会で相互評価、交流をしています。又、上田市の介護サービス事業者会で研修、交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時に希望聞き、本人の希望を把握した上で体験入居してもらい、求めている事を理解している。それぞれの状況に応じて入居しやすいように取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後、来所時や電話で連絡を密に取り、十分に話ができるよう支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、体験入居時の状況状態に応じて、他のサービスを受けることができるように支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、それぞれの得意な事、できる事を行ってもらっている。昔のならわしを教えてもらったり、馴染みの物を取り入れている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状態や近況を月1回の通信や来所時に報告している。行事にも参加してもらったり、関係が途切れないようにしている。様子に変化あった場合は電話連絡している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように、自由に面会できる環境作りや支援に努めている。	・利用者の家族へは自由な時間に訪問できることを伝え家族が来易い環境に努めている。 ・利用者の毛糸の馴染みのお店、近所のラ-メン屋、本屋への訪問を支援したり、近くをドライブ等で支援して馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握した上で食堂の席を決めたり、みんなで楽しく過ごせる時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設、病院等に移る際は情報提供を行い、サービスが終了しても面会に行ったり、必要に応じて相談、話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりコミュニケーションから、一人ひとりの思いや希望を聞き、また家族からも話を聞き、意向の把握に努めています。	・アセスメント記録から本人の思い、希望、意向を把握している。視力、聴覚、言語等のコミュニケーション能力を確認し困難事例に対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションや家族から生活歴の聞き取りで把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送りで前日の様子を知り、バイタルチェック、食事量、行動、体調等により状態の把握につとめている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から本人、家族の思いや意見を聞き、より良く過ごすことが出来るように介護計画を作成している。	・職員会議で意見交換やモニタリングを実施している。カンファレンスを経て介護計画に反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日中、夜間の体調や日々の暮らしの様子等を記録し、申送りで情報を共有している。また月1回の会議でそれぞれの様子等話し合い実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、要望に応じて、通院や外出支援を行い柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事(ふれあい広場、どんど焼き)に参加したり、清明小学校と交流(運動会、音楽会、交流会)している。運営推進会議で市職員、地域住民の協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医療機関で定期的に受診、往診を受けている。また診療科目にない科目については、状況に応じて職員、家族が付添い情報提供し、受診の支援をしている。	・かかりつけ医については入所時に本人や家族に個別に意向、希望を聞いて応じている。 ・緊急の場合はかかりつけ医の判断で対応している。歯科は訪問により対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関の看護師による訪問が定期的にある。訪問時にバイタルチェック、状態みてもらっています。状態に応じて受診、入院と適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に情報提供し、様子をみに行ったり、連絡もらっている。退院時はサマリーもらい、入院時の状態把握できるよう連携をとっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ、主治医と連携をとり状態が変化しても、安心して暮らせるように取り組んでいる。	・重度化や終末期のあり方については入所時に個別に意向、希望を聞いて指針により対応している。利用者の重度化については併設の病院と連携し看護師の訪問により対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の研修を年1回実施している。24時間主治医、病院に連絡がとれる体制がある。緊急時の対応マニュアルがある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をしている。防災マニュアルがあり、併設施設からの協力体制がある。	・年2回の消防訓練により、消火、通報、避難訓練を実施している。地震災害の訓練についても実施している。	・夜間想定や避難口からの車椅子の避難訓練等引き続きさまざまなリスクを想定され実施されることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの言葉かけ、プライド傷つけないように気を付けている。個人情報の取扱いは守秘義務を理解し、責任ある取扱いをしている。	・トイレについてはカ-テンで仕切ってありプライバシーに配慮している。個人情報の使用については個人情報同意書を個別にいただき責任ある取扱いと管理を徹底している。ホ-ムペ-ジで個人情報の取り扱いの指針を公表している。	・パンフレットの改定時に個人情報の保護の指針等について利用者や家族にわかりやすく周知してもらうことを希望します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞いたり、日常会話の中から希望をくみ取っている。なるべく本人が選び決められるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、買い物、散歩、居室で休みたい時等、それぞれの体調や希望ペースにあわせて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き、理容店でカット、カラー、パーマしてもらっています。身だしなみも好みで出来る様に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に季節の物を取り入れたり、好き嫌いを把握して食事を提供している。買い物、食事の用意、後片付け一緒にしている。	・半月ごとに食事メニューを作成している。食事の好みについては入所時希望を個別に聞き取りしている。特別食やケーキ等のおやつがある。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事水分量把握しており、残量多い方には声かけ摂取すすめたり、摂取少ない方には好みの食べやすい物、エンシュア、高カロリーのゼリーやプリンを出したり、状態に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアできる方は行っており、できない方は口腔ケア介助したり、義歯洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの状態にあわせて対応しており、オムツの使用も長時間の外出時のみの使用にしたり、移動自力で出来ない方も、トイレ、ポータブルトイレでの排泄支援している。	・利用者個別の特性を把握し自尊心に配慮し、身体機能に応じ自分でできるよう介助している。リハパンについては利用者に状態と家族と相談し対応している。排泄の記録によりパターンや習慣を活かした対応を心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申送りで排便の有無確認している。また、食物繊維や乳製品を摂取したり、身体を動かしてもらっています。排泄チェック表で排便確認し、下剤も個々に適量を使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	意向にそうように順番等、考慮して入浴してもらっている。拒否ある場合は、時間ずらしたり、翌日声かけるようにしている。	・基本的には週2回をめぐりに入浴している。時間については利用者の希望に配慮している。なじみの職員と一緒に1対1で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調をみて日中の活動促し、気持ちよく眠れるようにしている。それぞれの状態に合わせて、就寝時間、眠剤服用もしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員に分かるように薬の説明書がある。薬剤師の訪問があり、併設医療機関と連携をとっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動が行えるように支援したり、外出、行事で楽しみ気分転換できるようにしている。家事等もそれぞれにお願いできそうな事を行ってもらい、感謝の言葉添えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事で花を見に出かけたり、ドライブや散歩車いす使用して出かけたり、歩行状態に関わらず外出支援している。	・一人ひとりの希望にそって花見、塩田のあじさい、初詣等の外出を行っている。 ・ドライブや散歩などの外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの状態に応じて持ってもらおうか、金庫内に預かり使えるようにしてもらっています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話をしたり、手紙を出せるように支援しており、普段は出さない入居者にも年賀状を家族や出したい方聞いて出せるよう援助している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温や光(日光、照明)に配慮し居心地よく過ごせるようにしている。食堂等に花や装飾品を飾り、季節感を出している。テラスに園芸ボランティアの協力で花を植えている。	・共用の空間については採光や照明、温度等に配慮している。ボランティアの協力により花や装飾品を飾り季節感に配慮している。トイレは安全配慮を優先している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は食堂のみだが、入居者の相性により席決めている。入居者間で居室の行き来している方もいる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や使いやすい物を持ってきていただき、居心地よく過ごせるようにしている。	・個人の絵や家族の写真、ご仏壇、テレビ、新聞の購読など利用者や家族の意向を最優先とし居心地よさを配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況等に応じて手すりを増設したり、居室内も安全にできるだけ自立した生活が送れるよう、センサーマットや移動バー等使用し、環境整備している。		